

柳田国男『海上の道』と 始祖日本人

瀬 戸 山 ひ ろ

日本地図、今の私の眼の出発点は、先島諸島といわれる台湾のすぐそばの島々である。最南端の波照間島、西表島、石垣島、宮古島、そしてグンと跳んで沖縄群島・・・黒潮の流れる方向に、眼が日本列島に沿って北へ北へとあがっていく。

柳田先生は、この<南から北>への方向で「始祖日本人」が伝播していったと考えた人だ。

紀元前2千年前の出来事。時代は縄文時代末期。とある南の島に台風のために大陸から流されてきた舟があった。漂着したのは大陸では魚を捕って暮らしていた2人の男である。彼らは珊瑚礁の浜辺に、美しい宝貝が真砂のように転がっているのを目にした。宝貝は大陸では物々交換をする際に、高価な品物と引き替えてもらえるのである。それこそ宝の貝だった。さて、その後彼らは運良く大陸に帰り着いたが、ことあるごとに宝貝のある美しい島を思い出さずにはおれない。数年後、彼らは妻子をはじめとして、親しい者を引き連れての永住を決意し、舟で沖に乗り出したのだ。島に上陸した集団が手にしていた物は米。しかも食料としての米でなく、植え付けて収穫を期待する「粳」だった。

この島が「宮古島」である。そしてこの集団こそ、「始祖日本人」である。

(『海上の道』一九～二一 を踏まえて想像したもの)

全部で約400からなるという日本の島々を南から北へ、ほとんどの場合、<漂着>という偶然の出来事をきっかけに、<米を携行しての移動>が行われたという仮説が柳田説である。(言い換えれば、すでに日本人化していた人々の中に、突然米の種が持ち込まれたのではない、という説である。)

この危険を伴う命がけの「海上の道」の移動の原動力となったものが「宝貝」という考え方に驚いた。

この貝は『竹取物語』に出てくる「子安貝」のことである。昔々、宮古島近辺の海岸はこの宝貝の宝庫だったという。珊瑚礁に囲まれた白い砂浜に流れ寄った美しい貝である。日本の縄文時代にあたる頃、大陸(殷)では宝貝が貨幣の代わりに使われていたという。普通の貝にはその価値はなかった。殷の都、河南の安陽の遺跡からはお

びただしい炭化した宝貝が発掘されたそうだ。つまり宝貝は、この時代にはすこぶる貴重品であつたらしい。その一つの証拠が漢字である。貝を部分として持つ漢字を捜すと「財」「貨」「購」「寶」「贄」「貴」「貯」「嬰」・・・パソコンの文字パレットで調べたらなんと549個もあった！！

(殷の甲骨文字にこれだけの字があるかどうかは知らないが、あのお人好しの貴人が、なぜ命がけて、たかが「燕の子安貝」を捜さなくてはならなかったのか、これでようやく理解できたのである。)

ただ、不思議なことに大陸ではどの海岸でもこの宝貝は産出されないものだったという。大陸の人々つまり殷人は、宝貝をめざして今の沖縄近く、特に宮古島へと移動していったと想像するのは当然だ。とすると「始祖日本人」は、柳田先生の言うように、殷人の一人だったかもしれない。

しかし、残念ながらこの仮説は、相変わらず仮説のままである。なんととっても縄文時代の稲作の跡が沖縄地方では発見されていないのだ。柳田先生自身、自説に確信はなかったようで、後世の学問の進歩に期待するようなことを何度も書いている。

先日たまたま読んだ、司馬遼太郎の『街道をゆく6 沖縄・先島への道』に、つい最近まで先島あたりでは、漁に出るときは米だけでなく「粃」を持って行ったと書いてあったのがおもしろかった。「米」でなくてなぜ「粃」なのか。他に沖縄地方には「くめ」「こみ」という地名もあちこちに残っているそうだ。遺跡は発見されていないにせよ、西南の島々と稲作の関連は深かったのかもしれない。

もしも今後、沖縄に、特に宮古島に、稲作の縄文遺跡が発見されたら『海上の道』が『ホメロスの叙事詩』(シュリーマンがトロイを発掘した事件) なみになるかもしれない。その時、天国の柳田先生はにっこり笑って「ほら、やっぱりね。」と言うだろうな。

柳田先生没後の民俗学や科学の進展はすさまじく、稲作について、また「日本人」の起源については次のような定説ができていたので、最後に紹介しておこう。

日本列島では

6000年前(縄文時代)すでに稲作が始まっていた。ただし、水田耕作ではなく焼き畑だった。

もたらしたのは大陸の漁労民。この人たちは大陸の人々で、まだ「日本人」とは呼べない。

3000年前(縄文時代)には水田耕作の技術が日本にもたらされたい。

2000年前（弥生時代）水田耕作が、あっという間に日本中（北は津軽平野まで）に広がった。この頃いくつかのルートで、中国大陸から、南方から、先祖集団（渡来人）が本土へ到来したらしい。この人々は猛烈な勢いで東へと広がっていった。ところが東にはすでに縄文人が住み着いていた。やがて東と西の交流が進み、融和し「日本人」が誕生した。

（NHKテレビ『日本人はどこから来たか』による）

（2004 / 3 / 10）

参 考 文 献

- 「海上の道」 柳田国男著 岩波文庫 1978年
「沖縄・先島への道」 司馬遼太郎 朝日文庫 1978年
「沖縄からアジアを見る」 陳舜臣 比嘉政夫 NHK人間講座 2000年4月～6月期号
「沖縄からアジアが見える」 比嘉政夫 岩波ジュニア新書 1999年